

芦屋市立精道小学校

「阪神淡路大震災を語り継ぐ」

《活動の要旨》

今から 30 年前、1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分マグニチュード 7.3 の兵庫県南部地震が起きました。私たちの芦屋市立精道小学校校区は 7 割が全半壊という被害を受け、その地震により、8 人の子どもと 6 人の保護者が亡くなりました。また、当時はまだ小さく、精道小学校に入学してくるはずだった 15 人の子どもも亡くなりました。

精道小学校では、この日を忘れないために、各学年 1 年間を通して防災について学習をします。そして、毎年 1 月 17 日には全校生で追悼式を行っています。

1 年生は、毎年みりちゃんの朝顔の種を植えて育てます。みりちゃんとは、震災当時 5 歳で、精道小学校に入学してくるはずの女の子でしたが、震災で亡くなりました。震災後、みりちゃんの育てていた朝顔の植木鉢が見つかり、そこからとれた朝顔の種を毎年 1 年生が育て、次の 1 年生に引き継げるように大切に育てます。

2 年生は、ひまわりおじさんの話を紹介しました。そのおじさんは、精道小学校のみんなを元気にするため、震災の次の年に運動場にひまわりの種を植えてくれたそうです。毎年 2 年生がその種を植えて育てています。夏には大きなひまわりが咲いたことを紹介し、そこからとれた種を 1 年生に送りました。

3 年生は、精道小学校の校庭にある、祈りの碑を紹介しました。震災から 1 年後、亡くなった方たちへできることはないかと話し合い、祈りの碑をたてました。祈りの碑の裏には亡くなった 8 人の子どもの名前が刻まれています。つくられた経緯や、込められた想いについて考えました。

4 年生は、希望のりんごを育てました。希望のりんごとは、阪神淡路大震災からの復興を願って 2008 年 1 月 17 日に植樹されたりんごの木のことです。亡くなった子どもの数にあわせて 8 本植えました。4 年生は 1 年を通してりんごの木を観察し、収穫したりんごを使いリンゴジュースにして飲みました。

5 年生は、芦屋市の先生たちが作った防災学習絵本「この町がすき」を読み、この本に込められた想いについて考えました。この本には、芦屋に引っ越してきたあやちゃんのお話や、阪神淡路大震災の当時の様子が詳しく書かれています。芦屋で歌われる「この町がすき」のできた経緯も学びました。

そして 6 年生は、精道小学校で亡くなった 8 人がどんな人だったのか、遺族の方や当時の担任の先生、または同級生の方から話を聞き、まとめました。生きたくても生きられなかった 8 人の子どもたちのことを忘れないように、自分が感じたことや考えたことものをせて 5 年生に語り継ぎました。

これからも、精道小学校で代々語り継がれてきたことを中心に震災のこと・防災のこと・減災のことを次の世代へとつなげていきます。